

F

A

B

レ

ポ

ー

ト

No9

2012.2.6

発行

～サポート室便り～ 

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えます

ロールモデル誌を発行しました

女性研究者支援の一環として、大分大学で活躍する女性研究者を紹介する「**ロールモデル誌**」を発行しました。多くの研究者が大分大学で活躍していますが、女性研究者の数はまだまだ少ない状況です。国際比でみても日本の女性研究者の割合は13.6%で、先進国では最下位レベルとなっています。女性研究者が少ない要因の一つとして、女子学生にとってお手本となるロールモデルを知る機会が少ないということがあげられています。そこで、このような冊子を発行し、研究の魅力や研究生生活について紹介することで、進路選択の参考にしていただきたいと考えています。

※ロールモデル誌をご希望の方は、サポート室までお問い合わせください。

月刊トピックス

女性支援に関する事や情報などをご紹介します

イメージキャラクターFAB子ちゃん誕生

サポート室のイメージキャラクター「FAB(ふあぶ)子」ちゃんが誕生しました。研究職に憧れ、女性研究者についていろいろな知識をもっている中学生です。サポート室の活動をPRするため、このFAB子ちゃんが登場するコマーシャルが、2月1日から1ヶ月間、TOSとOABのいろいろな時間帯に放送されます！



◆**研究サポーター事業**◆ 現在のサポーター利用状況は、医学部の4名の先生方が承認されています。今年度の利用申請については、**2月15日**まで随時受付となっています。来年度も、サポーター利用申請の受付を行う予定です。詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。

P i c k
u p

大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

工学部 助教 堤 紀子さん

『 **機械工学と私** 』

「なぜ機械工学の研究者になろうと思ったのですか？」

と、よく尋ねられます。私自身も、面白そうな方を選んできただけ、としか言いようがありません。

子供の頃に機械いじり大好きだったという訳でもなく、ただ、高校で力学が少し得意だったので、大学受験では将来つぶしが利きそうな機械系学科を選びました。大学に入学してからも、特に研究職に就こうとかは考えていませんでした。転機になったのは、大学3年の時のJR九州へのインターンシップです。インターンシップでは車両の分解、検査、組立の様々な保守管理の工程を体験し、保守管理の難しさと重要性を実感しました。

私の今の研究分野でもある「金属疲労」は機械・構造物の長期的な安全性に関して必要不可欠な分野ですが、まだまだ多くの解決すべき問題が残っています。研究では、金属の加工、実験、観察といろいろな手間もかかりますが、その分いろいろな発見もあり、とても興味深く、面白い分野です。機械工学は女性が入りにくいイメージがあるのか、工学部の中でも女子学生が少ない傾向にありますが、こんなに面白い分野なのに入って来ないなんてもったいない！と感じています。